

平成 23 年 10 月 8 日

東京フォーラム

於：湯島聖堂

中斎塾 東京フォーラム

平成 23 年 第 9 回講話

先日、中斎塾フォーラムの有志十名で、明治神宮の奉納吟詠に参加致しました。神前での吟詠は結構氣合いが入って良いものだと思います。奉納吟詠の前に、国歌斉唱しましたが、背筋がピンと伸びるとも感じました。その時の様子を写真に撮ろうと思い、チャンスを狙っていたら、「止めて下さい、ここは撮ってはいけない場所です」と注意されたので止めました。しかし制止した当の明治神宮の職員は写真を撮っていました。「我々は記録で撮らなければいけないのです」と言うのです。ここら辺から、我々は特別だという官僚の意識が芽生えてくるのだなと思いました。やはり、自分の言動は考えなければいけない、氣をつけなければいけないと、その時は思いました。

先月は東久留米論語の会に応援で行って来ました。その会は、主催者の人柄が滲み出てくるような内容の良い会でした。こちらは写真を撮っても文句を言われないので、写真を撮って来ました。それは今度、季刊誌に載せて貰います。

季刊誌の内容が変わりました。ご意見を募集しましたら、色々と提案をして戴きましたので、おおいに活用したいと思っています。

季刊誌知足の表紙は、西遊記の天上天下唯我独尊と云う孫悟空が誕生する花果山^{かかざん}をイメージして作りました。それから、知足で非常に意識している箇所は、木内信胤語録です。先生が話されたものを一所懸命に筆記しまして、話を聞いていた三人で纏めたものを、一冊の本にしました。その中から毎回掲載しています。

季刊誌の知足は、表紙と木内信胤語録に思いを込めております。

社長の約束

私がシムックスを立ちあげた時に 3 つほど社員の方と約束した事があります。今度若い社長に経営をバトンタッチしたら、その 3 つの約束を守ってゆくとの表明を新社長が就任時に致しておりました。

約束の 1 つ目は、社長は所在不明をしない事。所在不明は行き先を言わないで出る事です。所在不明が 3 日間続いたら、その会社は危ないと思うようにとっております。

2 つ目ですが、社長は分不相応のものを購入しない。その当時は外車が分不相応だと思ったので、外車は乗らないと言いました。

3 つ目は、社長が二号さんを困ったら危ないと思いなさいと言いました。

今日の資料をご覧下さい。先日、新潟県にある永林寺という曹洞宗のお寺に行きましたら「佛様のことは」という良い言葉が彫られた碑があったので、資料に載せさせて頂きました。良い言葉だなと思い、何回も読み直しています。

お前は お前で丁度よい

顔も 体も 名前も 姓も お前に それは丁度よい

貧も富も 親も子も 息子の嫁も その孫も それは お前に丁度よい

幸も 不幸も 喜びも 悲しみさえも丁度よい

歩いたお前の人生は 悪くも無ければ良くもない

お前にとっては丁度よい

うぬぼれる要もなく 卑下する要もない 上も無ければ下も無い

死ぬ日さえも丁度よい

佛様と二人連れの人生

丁度良くないはずはない

出典：法句経 訳詞：藤場美津路師

知足を食事で考える

今回の「知足」で会員さんから、もう少し知足について掘り下げて下さいとの意見がありましたので、今日は分かりやすく食べ物視点で、貝原益軒の養生訓という本を取り上げてお話をしたいと思います。「養生訓」はかなり解説書がありますし、良い本だと思います。

恒例の質問

昨日一日、嘘をつかなかった方？

...胸を張って言えると、朝の目覚めが違います。

昨日、一日笑顔で過ごせた方？

ちょっと厳しいかな...思ったより少ないですね。

昨日一日、有難うと言い、有難うと云われた方？

現時点でご自分の健康法を持っていて、実行されている方？

...はい、有難うございます。大勢いらっしゃるですね。貝原益軒の養生訓の中に健康法が書いてあり、実践されると良いとありますので、それも参考にされると良いでしょう。

夕べ寝る時に、明日は良い日だったなと過去形でイメージ出来た方？

...御一人おられる。凄いですね。

過去形で明日をイメージ出来ると人生かなり充実してきます。どうぞ実験してみてください。

知足に関して質問します。

朝ご飯を食べた方？

…皆さん手を挙げていますので、さらにお聞きします。

今朝の朝食は満腹、食べ過ぎたと思う方？（腹九分）

次は、朝ご飯を食べて一応満足したが、少し足りなかった方？（腹八分）

足りないな、でもこれぐらいで止めておくのが自分の体の為にも良いと思っている方？（腹七分・腹六分）

空腹感があるけど、空腹感が心地よく感じられる方？（腹五分）

…腹六分の方が若干、腹五分の方が御一人おられました。

貝原益軒の「養生訓」には、空腹を避ける程度の食事が人間にとって一番良い食事だという説明があります。ダイエットに関して色々なお医者さんの書かれた本を読んでいますと、空腹感を心地よく感じている人は、ダイエットの視点で見ると成功しているようです。また、常にお腹いっぱい食べたと思うようでは早死にするともあります。

貝原益軒は江戸時代末期の本草学者、儒学者で八十五歳まで生きました。「養生訓」は八十四歳の時に纏められたものです。ですから亡くなる寸前まで、長生きをした自分の過去を振り返って、自分の実体験から長寿を全うするためには、こういうものが身体に良いという養生の術を纏めていたわけです。

貝原益軒は「養生訓」の中で、六十歳が下寿、八十歳を超すと真中の中寿、百歳で上寿という断定をしています。そして、「下寿をたもつ人すくなく、五十以下短命なる人多し」の理由は、「皆、養生の術なければなり」と書いています。その頃（江戸時代末期）の平均寿命は四十歳以下だったと思いますので、<五十歳前で亡くなるのが若死に>と云う貝原益軒の感覚は、驚く様な常識であったと思います。

因みに日本人の男性の平均寿命が 50 歳を超えたのは昭和 22 年です。戦後、男性の平均寿命が飛躍的に延びました。それまでの日本人は若死にしていた人が多かったのです。

今日の論語 泰伯第八

16 子曰く、^{きやう}狂にして^{ちよく}直ならず、^{とう}侗にして^{げん}愿ならず、^{こうこう}恇恇として^{しん}信ならざるは、^{われ}吾之^{これ}を知らず。

孔子が言うには、凄まじく志が大きくて小事にはこだわらないが正直ではない。青二才で物を知らないくせに、真面目に物事に対処しない。無恥無能で誠実ではない。こういう人物を私はどうすればよいか分からない。

狂とは一般の人から見ると狂っているかと感じるような常識外の人です。狂人と言っても志が大きい。鵬（おおとり）という空想上の鳥がいますが、ひとたび羽ばたくと、凄まじい風が巻き起こり、天空に駆け上がる。狂人とはそのように志が大きく偉大な人物で、正直者でなければいけないのにそうではない。

侗は無恥、愿は謹厳実直の意ですから、物を知らない人で、慎み深くない。これもあまり良くないと言っています。

慳慳は無能です。能力がない人で、信用できない。不正直者、無恥無能の者、信頼できない人...そういう人達は孔子でさえ教えられない、というように解釈できます。

この文章を現代に置き換えますと、残念ながら政治家全員に申し上げねばなりません。否定をされる方もいらっしゃると思いますが、鵬が天空高く飛び上がると一人一人個々のものは見えませんから、政治家の集団が灰色や黒色で見える。政治家集団となると、どうしてもこういうものの見方になります。中にはキラッと光る人が出れば良いなと思ひますし、政治家も全員、様変わりすると良いなと感じます。

17 子曰く、学は及ばざるが如くするも、猶之を失わんことを恐る。

いつも学ぶ努力を続けて、でもまだ足りないと常に思い続けるように努力をしましょう。

自分が理想とする学問の高みに登るには、このペースでは追いつけないなと恐れている。これは孔子自身の学び方だと思います。

私共が学んでいる学問は、突然現代に出てきたものを学ぶのではなく、学縁（学問の縁）で学んでいます。江戸末期に佐藤一斎という儒学者がおられました。その辺りから、お話致します。

佐藤一斎の学縁でみますと、山田方谷は佐藤一斎から学び、山田方谷は三島中州に伝え、三島中州が山田済斎（準）に伝え、そして石川梅次郎が継承し、石川梅次郎先生から私は学んでいます。ですから皆様方は今ここで素読論語を学んでおられるという事は、日本の伝統文化である論語を正当な学び方で学んでいると考えて結構です。

私はその学び方の中で、三島中州と友人関係にあった渋沢栄一の論語に対する学び方が非常に好きですので、渋沢論語の学び方をだいぶ取り入れてお話をしております。そして、現代に置き換えたらどうかという視点でお話を進めています。どうぞ御自分の身の回りで役立つように論語を活用して戴きたいと存じます。

因みに学んでいる人は表情が豊かで、眼がキラキラ輝いていて、若い人であれば将来性が豊か、年配者であれば大人（たいじん）の雰囲気が出てきます。論語を真剣に学んで、自分なりに肚に収めると、自然と周りを明るくすると思っています。

そうしますとここ湯島聖堂で学んでいる我々は、自分の身体に学びを沁み込ませて、御年配の方、若い人達へ伝えていくことが使命だと思って戴きたいと存じます。

多くの方に論語、或いは「足るを知る」という考え方、見・観・察と云うものの見方、判断をする判断基準。良い本、良い師匠、それから自然に学ぶという師匠のあり方を身につけて戴きたいと感じます。

18 子曰く、巍巍乎たり、舜禹の天下を有つや。而して与らず。

孔子が言うには、舜と禹という王朝の君は素晴らしい。天下の政（まつりごと）をするにあたって、実務は賢い人間に任せ、自分は直接タッチしない。人材を活かして天下を保

っている。たいしたものだ。

トップに立つ会社の社長が、直接実務に携わらずに片腕に任せる。トップに立つ人の片腕が沢山できていて、実務をこなしてくれる。上に立つ人間は経営哲学・経営方針を指し示して、自分の後姿を見て皆が付いてきてくれる様な動き方をするのが良いと、お考え下さい。

19 子曰く、大なるかな、堯の君為るや。巍巍乎たり、唯天を大なりと成す。唯堯之に則る。蕩蕩乎たり、民能く名づくること無し。巍巍乎たり、其の成功有ること。煥乎たり、其の文章有ること。

孔子が言うには、堯の君主たる様子は堂々として素晴らしい。堯帝と並び称されるのは天しかないだろう。(天と堯は同格だと孔子は感じています)蕩蕩乎は広々としてゆったりとした(温泉に浸かったような)気分。

民は堯帝の統治のもとゆったりのんびりして仕事ができる。そういう中っていると、国民は素晴らしさが分からないので、具体的に表現はしないものだ。その治績の成就是素晴らしい。その堯帝の政治・文化(礼楽制度)は光り輝いて素晴らしい。

孔子は堯・舜という古代中国の国家、神話の時代は素晴らしい時代だったと考え、その世界を現出させたい為に学んでいるのだと意識しているのを感じます。

20 舜 臣五人有りて、天下治まる。武王曰く、予に乱臣十人有り。孔子曰く、才難し。其れ然らざんや。唐虞の際、斯れ於り盛なりと為す。婦人有り、九人のみ。天下を三分して其の二を有ち、以て殷に服事す。周の徳は、其れ至徳と謂うべきのみと。

舜には優秀な片腕が 5 人いて天下が治まる。それを聞いた武王が、私には乱れた世を治める素晴らしい家臣が 10 人いると言った。孔子が言うには、人材を得るのはなかなか難しい、本当にその通りだと言う。

唐(堯)と虞(舜)が禅譲で継承した時よりも、周は人材が豊富で国は栄えた。

婦人有りというのは、武王の皇后邑姜(ゆうきょう)と云う女性です。10 人の中で女性が一人いるから、具体的には 9 人の優れた賢臣がいる。

周(日本でいけば大名みたいなもの)は、天下を見渡して 3 分の 2 を心服させました。しかし、それだけの勢力を保ちながら殷を君主とし崇め仕えていました。実力があるにも関わらず、身を低めて謙虚な形で、殷を認め仕えていた。それを至徳と言っても良いでしょう。

実力があって、弟子が師を凌ぐような状況であっても、師を師として崇めているというのは素晴らしいと孔子は言っています。

今の世の中、あまりいませんね。師匠より少しでも勝ると、自分を素晴らしいと言って師を蔑ろにするのが普通ではないでしょうか。

21 子曰く、禹は吾 間然すること無し。飲食を菲くして、考を鬼神に致し、衣服を悪くして、美を黻冕に致し、宮室を卑しくし、力を溝洫に尽せり。禹は吾 間然すること無し。

間然は、隙間です。鬼神は先祖です。黻は前垂れがあるような祭服で、冕は冠。溝洫は洪水対策・治水。

孔子が言うには、禹という人について隙間を見つけて、非難する事は無い。何故ならば、食べ物はきりつめているし、先祖に考をつくす。衣服は質素にして、宮殿は狭く、洪水対策に力を注いでいます。

後世に洪水の神様として崇められた禹について、孔子は何も非難する事は無く素晴らしいと言っています。

時事評論

昨日の朝日新聞で、増税について書いてありました。大和総研が年収 400 万円のサラリーマン家庭（夫婦と子供二人）で、増税がどれだけ負担になるかという試算をしていました。2年後復興増税といわれる所得税の中で税金を払うのは、年間 2500 円、住民税が 62,400 円アップです。厚生年金の増税は 14,100 円、子供手当の見直しでマイナス 54,000 円。全部合わせて 40 歳以上のご主人の家庭で、年間 132,900 円が実質増になります。

復興増税ばかり言われていますが、何の事はない、その陰に隠れて、厚生年金、子供手当の見直し、住民税はあまり気にしていませんけれど、しっかり上がります。大変な数字になります。

因みに年収が 1 千万の人ですと、400,770 円上がるという試算の記事がありました。

これは一つの民間企業が試算したもので、それぞれの専門家が試算すると、また違うものになると思います。野田さんが首相になって増税路線がどんどん進んでいます。

完全に日本は増税路線に入りましたので、いよいよ身を慎ましくしなければいけません。東電は天下りの費用や自分達の経費もみんな乗せて、知らない内に値上げをしましょう。

他に氣になったのは、小沢さんの初公判の記事です。

小沢さんが被告になったのは、市民の目で見てもおかしいと感じたからでしょう。検察が二回不起訴にしましたが、強制起訴の対象になった第一号の事件です。これは歴史的なものになると思います。過去には田中角栄さんが同じような理由で有罪判決を受けています。金丸信さんも、小沢さんの師匠ですが、その師匠の後を追うように、小沢さんも同じ様な手法で同じような目で見られ起訴されています。来年の四月に判決が出ます。

政治と金の問題について、日本の国はドンドン悪くなってきています。ヘドロが国の中に溜まって来ているように感じます。小沢さんの動きを政治と金という視点で意識して見しておく必要があります。人間はストレスが溜まれば溜まるほど、身体のどこかが悪くなる。

小沢さんも尿管結石で入院しました。これが本当であれば脂汗を流すほど痛いそうです。ストレスがそのような形で出たのかと思います。

また、小沢さんの動きで野田政権もかなり左右されると思います。本人が意識的であろうと、無意識であろうと関係なく日本の国をドンドン悪化させていく。そんな役回りで生まれてきたような政権です。野田さん自身は、鳩山さんと菅さんがあまりに酷く、それに対して凡庸な宰相が出てきたので、期待されたと云う所です。これから実力を発揮せねばならないでしょうけれども、たぶん発揮出来ないでしょう。

小沢さんが民主党から飛び出して、また分裂させていけば形は変わるでしょうが、今のままでいけば日本は政治家が先頭立って悪くしてばかりいます。今後とも悪くなり続けます。では、いつ頃から良くなるかと申し上げれば4年後は希望が持てます。4年後、少し良くなって来たというのが垣間見えてきて、5年後には上昇気流に乗ったと分かるでしょう。

とにかくこれからは落ちる一方ですが、どの程度の落ち方になるかは、野田さんが「私は坂道で雪だるまを押し上げる役回りになるような政権を担う」と上手い表現をしましたが、おそらく雪だるまが坂道を転げ落ちてきて、押しつぶされるのが野田政権であろうと感じます。

新聞の見方・考え方<判断基準の背骨>

ものを見る・判断する際には背骨が要ります。新聞を読む時の判断基準として、縦軸が要ります。中心の判断基準になります。そこに色々な記事をはめ込んでいくと横の枝線が加わって来ます。

何度も申し上げている様に、今年、新聞を見ていく時の縦軸は3つです。

- 1 民主党の不様な手
- 2 国債はどう変わっていくか
- 3 自然災害

新聞を読む時、民主党の打つ不様な手という縦軸の見方に、これがどのように枝分かれしていくか、色々な記事を当てはめていく。民主党絡みのものを長く見ていくと、本当に不様な手が幾つも見えて来ます。おまけに野田政権は自民党の亜流政権のような動きをしていますから、民主党は段々自民党化していくでしょう。そうすると政治家はどうにもならないと国民が判断をしていく事になります。

現時点で一番注目すべき事は税金です。歴史的に見直してみると、山田方谷の「理財論」の中に、過酷な税金を国民に強いた場合、その国は滅びると云う記述があります。

民主党は国民に過酷な税金を強いているかどうかを見るべき必要があります。そうすると、先ほど申し上げた朝日新聞の税金の記事で分かります。

消費税は今回の新聞では外されています。財務省の官僚が、増税路線を走る時に野田総理にリーダーシップを発揮して貰う形をとる為、消費税も今回の税金案の原稿に入れました。でも野田首相のリーダーシップによって消費税を外したという形の記事が、あちこちに出ています。これは明らかに日本の国を滅ぼすといえます。

これは歴史的視点からみて過酷な税金と云う表現がピッタリとはまります。

新聞記事を読んでいけば、歴史的な視点で見ると幾つものパズルが浮かんできます。税金・人材・国債をこのパズルにあてはめて、この問題が年内で収まるのか、来年も続くのかどうか考えてみて下さい。

今日読んだ論語の中に「才難し」と孔子が言いました。これは人材を得る事が出来ないのが普通だと受け止めて下さい。

木内信胤先生流に言えば、マルクス・レーニン主義は百年持たないと言われました。

ここら辺が哲学の部分で判断基準の根幹ですが、百年間国民を騙し続ける事は出来ないという視点で、マルクス・レーニン主義を捉えておられました。

また安岡正篤先生が言われた事で、親不孝者が考えた思想は、まがいものである。世の中を幸せにはしない。

歴史的な視点で見ると、判断基準となるポイントが幾つもあります。新聞記事を読んでそれがフツと頭に浮かんで、この紀事はこの様に読もう、こう見ていこうと思ひ、この問題は年内で収まるのか、来年も続くのか、2年後3年後にこの効果は...という見方が出来るようになれば、たいしたものです。

木内信胤先生はそのような見方をしておられて、「ベルリンの壁は後数ヶ月で無くなる」と言われ、実際にその3ヶ月後にベルリンの壁は崩壊しました。

先生は亡くなられる前に、「これからは予測学をしていこうか」と言われました。予測という考え方は、理屈ではありません。

色々な事実を積み重ねてゆき、それをしっかり自分の中で受け止めて自分なりの判断基準で見てゆくと、理屈ではなく閃きます。閃いた後で理屈が付いてきます。物事の判断というのは、そのようにする事だと木内信胤先生に教わりました。

皆様も世の中の事象を見て予測や仮説を立てると良いでしょう。仮説を立てて、その通りになっても、反対の場合でも、何故かと考える癖をつける。なぜ当たったのか、なぜ外れたのかを真剣に考え、自省をする事によってその人の器が大きくなります。新聞を読んでいてそのような効果がでるのは良い事だと思います。

さらに、新聞の背景も見ておく必要があります。この新聞は、どういう思想で、どういう考え方を持っている人が新聞を作っているのか、編集責任者はどういう人なのか。過去10年、20年前はどのような主義を唱えていたのか。一番良いのは戦争を境として、戦争前・戦争後以降はどのような主義主張をしていたかを意識してみると良いでしょう。新聞については、そう考えています。

日本の国債は紙くずになると私は思っています。ただ他国の方が、悪化するスピードが速くなってきています。日本とアメリカがデフォルトの競争をしている様に見えて仕方がありません。今日の新聞で、アメリカの格付け会社がイギリスとポルトガルで、21の金融機関を一斉に格下げしたという記事がありました。

今ヨーロッパの国々はドンドン国力が落ちていて、経済的にも落ち込んでいます。世界全体で見ると皆、落ちています。ですから、日本が酷いと言っている間に、周りの国がドンドン悪くなっているのが相対的に日本が良く見えているのです。野田政権は、鳩山さん菅さんよりは悪くないという消去法で、良く見えるのと似ています。

アメリカがデフォルト寸前までいったのでアメリカは酷い、その上ギリシャ危機と言われ、西欧国家が崩れてきている為に、消去法で見て日本が良く見えるものだから、日本の国債を買う人がいるのです。日本の経済力が良いとは思わないけれど、まだ他国よりはましだという状況で、円が上がってきている。これもおかしな話です。ですから一転して、一気に日本が落ちるといふ事はあるでしょう。それは常に意識して見ていなければいけません。

国債を持っている方は、やはり何か別の物に換えておく必要があると思います。土地に換えておくのも良いでしょう。銀行預金をしておくのも1千万という枠があり、それ以上は保護しないのですから、決済預金にしてあげれば良いでしょう。ただ金利は付きませんが、今の日本の金利は微々たる金利ですから、減らさないようにしておく手だては講じておく必要があるかと思えます。

言い方を変えますと、目の前に自然災害がありますので、自給自足が出来るように用意しておく。お金があり、お金として持っていようと思うなら他の通貨に換えたり土地に換えたり、食べ物が入るような手立てを講じておく必要があると感じています。

自然災害は、今で云うと放射能汚染でしょうか。3月時点の福島原発では東電の関係者が3700人以上働いていました。今日の新聞で見ますと、外部の被ばく線量100ミリシーベルト以上の人がいるけれども、調べても分からないという書き方でした。除染計画の基準として国は、20ミリシーベルト以上は国が、20ミリシーベルト以下は市町村が対応して除染をして貰いたいと云う計画を出しています。国が責任を持って放射能汚染に対応しているとは、とても見えない。

やはり自分達で対策をしなければならぬでしょう。皆さんもガイガ カウンターをお持ちになった方が良いかなと思います。出かける時には、どれ位の放射能汚染があるか計りながら出る。

この間テレビを見ていましたら、小学生の子供が官僚に「私、大人になれますか？何歳頃まで生きられるのでしょうか？大人になる迄生きられるのでしょうか？」との質問に対して、官僚は「最大限努力をしていきます」と答えていました。子供に向かって官僚答弁をしている人があるものかと感じました。大人である我々は放射能汚染から身を守り、家族は自分達の手で守るのは必要であろうと思えます。

後は新聞を見ながら、起きるべき、起ころうとしている災害、幾つも小さく困み記事で出ています。新聞を読んでいて気づきがあったら、掘り下げて調べるという努力をして戴きたいと感じます。